県立東根中高一貫校（仮称）
Ｑ＆Ａ(平成２５年度版)

このＱ＆Ａは、平成25年11月15日（金）から11月26日（火）の間、北村山地区３市１町、天童市、河北町の６会場において、県立東根中高一貫校（仮称）に係る地域説明会の際に、参加者の方々から質問のあったことをもとにまとめたものです。

ー　目　次　ー

【学習全般について】（ｐ1、ｐ2）

【県立中学校入学者選抜について】（ｐ2、ｐ3）

【進路について】（ｐ3）

【部活動について】（ｐ3）

【通学等について】（ｐ4）

【施設設備について】（p 4）

【その他】（p 4）

高校改革推進室

【学習全般について】

Ｑ１：中学校において数学や外国語などの授業時間が増えるが、他の教科で減るものはあるのか。

Ａ：文部科学省が示している標準時間を下回る教科はない。

Ｑ２：平成28年度は中学1年生のみであるが、中学校の教員配置はどうなるのか。

Ａ：具体的な教員数は検討中だが、平成28年度は中学1年生を指導するのに必要な教員が配置され、年度ごとの学級数の増加に伴い、教員数が増加していくことになる。

Ｑ３：学習指導や部活動の指導等で、高校の教員が中学生を指導する場面があるのか。また、その逆のパターンもあるのか。

Ａ：先進校の取組を参考にし、今後、具体的に検討していきたい。

Ｑ４：高校における進学型単位制とはどのようなものか。

Ａ：単位制とは学年区分がなく、3年間で基準以上の単位数を修得した場合、卒業が認められるシステムである。国による教員の加配があるため、数多くの選択科目を開設し、少人数授業を通して、生徒の進路希望等にきめ細かく対応し、学力の向上を図ることができる。

Ｑ５：6年間で生徒間にかなりの学力差が生じると思われるが、どのような支援を考えているのか。

Ａ：単位制のメリットを十分に生かし、少人数授業などにより丁寧に指導していく。

Ｑ６：高校1年を6学級とすることについて、具体的に説明してほしい。

Ａ：高校は、通常、1学級40名編制だが、東根中高一貫校（仮称）の高校1年次は学習内容の進度差が生じているため、例外的に内進生99名、外進生101名をそれぞれ3学級ずつの少人数学級編制とする。高校2年次と3年次は、文系、理系に分け、内進生と外進生を混合した1学級40名で5学級編制とする。

Ｑ７：高校2年次や高校3年次においても学習進度差に対応していくのか。

Ａ：教科の特性上、数学において内進生と外進生の学習進度差の影響が最も大きいことから、高校2年次及び3年次においても、数学の授業は内進生と外進生に分けたまま少人数指導で対応する予定である。

Ｑ８：土曜日や日曜日に、授業を行う計画があるのか。

Ａ：多くの生徒が大学進学を目指している高校においては、現在でも土曜講座などを実施しているケースが多い。中学校については、今後の検討課題としている。

Ｑ９：中学3年時で海外研修旅行が予定されているようだが、どれくらいの諸経費が見込まれるのか。

Ａ：旅行先や研修内容は検討中であり、具体的に費用を示すことはできないが、過重な負担とならない方向で考えていく。

Ｑ10：現中学２・３年生は楯岡高校に入学することになるが、東根中高一貫校（仮称）へ移った時に、東根中高一貫校（仮称）の教育方針へと変わるのか。

Ａ：現中学２・３年生は、楯岡高校に入学する時に提示される教育課程により、３年間学ぶことになる。ただし、楯岡高校においても、東根中高一貫校（仮称）の理念に沿うよう先取りして探究的な学習に取組むなど、スムーズに移行できるよう準備している。

【県立中学校入学者選抜について】

Ｑ11：中学校入学者選抜において、男女別の定員を同数程度とするのはなぜか。

Ａ：男女別の定員を設けない場合、年度ごとに男女の入学者数に大きな偏りが生じ、体育の授業や学校行事などで支障が生じたり、部活動で部員を確保することが困難になったりする。また、周辺の市町村立中学校の男女バランスにも影響がでてくる。そのようなこともあり、最近開校したほとんどの併設型中高一貫教育校では、男女別の定員を設けている。

Ｑ12：中学校入学者選抜において、特定の分野で優れた能力をもった子どもを選抜する予定はあるのか。

Ａ：平成28年度県立中学校入学者選抜基本方針で示したとおり、小学校５・６年生の評定、適性検査、作文、面接の結果をもとに選抜する。特定の分野のみで合否の判断はしない。

Ｑ13：中学校の募集人員のうち、東根市内の小学生は何割程度合格させるというような条件はあるのか。また、市町村ごとに合格者数の割合を定めるような条件はあるのか。

Ａ：東根市内の小学生の合格者割合を定めることはしないし、市町村ごとの合格者数をあらかじめ設定することもない。

Ｑ14：合格するための基準点はあるのか。

Ａ：合格の基準点を予め設定することはない。検査等の結果を総合的に判断し、合否を決定する。

Ｑ15：中学校入学者選抜において、志願者が定員に満たない場合、全員合格になるのか。

Ａ：定員割れをした場合でも、高校入学者選抜と同様、本校の目指す学校像や育てる生徒像に照らして、学校生活を送ることが著しく困難と判断される場合、不合格となることはある。

Ｑ16：適性検査の問題は、国語、算数、社会、理科が均等に出題されるのか。また、教科書内から出題されるのか。

Ａ：４教科が等分に出題されるということではない。小学校で学んだことや日常生活に関することなどを総合的に出題する。小学校での学習範囲を超える出題とはせず、また、使用教科書の違いによって有利、不利が生じないようにする。なお、来年度、試行テストを実施し、適性検査問題や作文の問題を公表するので参考にしてほしい。

Ｑ17：何らかの障がいをもつ児童は受け入れてもらえるのか。

Ａ：障がいの有無に関わらず、公正に入学者選抜を行う。なお、特別支援学級は設けないので、入学後の学校生活への適応に不安がある児童については、出願前に進路相談の機会を設ける予定である。

Q 18：何らかの理由で 99 名を満たしていない場合、途中から転入することが可能か。

Ａ：転入を希望する生徒の学習進度と本校の学習進度を比較し、転学の可否を判断することになるが、高校での学習内容の一部を先取りし学習しているため、一般の公立中学校からの転校は現実的に厳しいと思われる。

Q 19：県立中学校に優秀な生徒が集まれば、周辺の中学校の教育レベルが低下するのではないかと心配している。周辺の市町村立中学校への影響をどのように考えているのか。

Ａ：東根市に設置する一つの理由として、人口が増加し、交通の利便性もよく、周辺の中学校に影響が少ないことが挙げられる。他県の例では、広範囲から入学している状況にあり、特定の中学校に大きな影響が出るとは考えていない。

Q 20：子どもの数の減少に伴い、小・中学校の統合が進んでいる。県立中学校の新設により、特定の小学校から多数の入学者がでて、就学先の中学校への弊害がでるのではないかと不安である。どのように考えているのか。

Ａ：全国的に見ると、かなり広い範囲から入学してくる傾向が見られる。一般の公立中学校については、自己の希望や目標が具体化し、進路意識が明確になった時点で自分にふさわしい高校を選択できるといった利点もあり、特定の小学校から多数の入学者がでる可能性は低いだろうと考えている。

【進路について】

Q 21：中学校から他の高校へ受検してよいのか。

Ａ：他の高校の受検は制度上可能であるが、内進生は６年間一貫した教育課程で学習するため、６年間本校で学ぶことを前提に受検していただくことになる。

Q 22：卒業生の進路先はどのようになると想定しているのか。

Ａ：ほとんどが四年制大学進学をめざし、具体的な目安として、約６割の生徒が国公立大学に合格できるような学力を身につけさせたい。

Q 23：在学中に学校になじめない場合、転校することができるのか。

Ａ：基本的には本校で卒業できるよう丁寧に指導していくが、やむを得ず転校する場合も想定される。中学校の段階では、住所の所在する一般の公立中学校に転入でき、高等学校の段階では、一般の高等学校からの転入学と同様の扱いとなる。

【部活動について】

Q 24：高校に水泳部があるので、中学校にも設置してほしい。また、学校にプールはないようだが、授業や部活動の場所などについてはどのように考えているのか。

Ａ：部活動については、生徒数や教員数を踏まえながら、総合的な観点から検討を重ねたものであり、これ以上増やすことは難しい。また、学校専用プールは設置せず、中学校の水泳の授業は、東根市が設置する市民プールを借用する予定である。

Q 25：開校時の中学校において先輩がいなく、人数が少ないため、部活動ができるのか。その場合、東根市内のある中学校と合同で実施するような計画はあるのか。

Ａ：他県の中高一貫教育校においても、開校時には中学１年生のみで部活動に取組み、3年時に県大会等に出場するなどの成績をあげている部活動もある。東根市内の中学校と一緒に活動することは、現在のところ、考えていない。部活動に限らず、１期生は苦労や困難もあるが、その分だけたくましく成長すると聞いている。

【通学等について】

Q 26：県内一円を通学区域としているが、通学方法について条件があるのか。
A：特に制限を設けない。

Q 27：かなり広範囲からの通学を想定しているということだが、寮や下宿の設置を考えているか。
A：中学生の発達段階を考慮した場合、保護者のもとから通学することが望ましいと考えており、寮や下宿を設置する予定はない。

【施設設備について】

Q 28：校舎とグラウンド等の施設は、平成28年4月の開校までにすべて完成する予定か。
A：校舎は完成するが、冬期間の積雪によりグラウンド整備工事ができないため、平成28年夏の完成予定である。なお、平成28年度の1学期の体育の授業は、体育館での活動にするなどして対応する。

Q 29：中学校の普通教室が北側であり、日当たりが悪いのではないか。
A：最近開校した学校で北側に設置した教室があるが、採光が安定し、評判は良好である。

Q 30：5階建ての校舎となるとのことだが、エレベーターを設置する予定はあるのか。
A：エレベーターは設置する。

Q 31：200ｍのトラックの使い方をどのように考えているのか。また、全天候型の公認グラウンドとする予定はあるのか。
A：グラウンドは、中学校と高校の体育の授業で利用する予定である。200ｍのトラックが確保できる程度の広さであり、全天候型の公認グラウンドを設置する予定はない。

Q 32：東根給食センターを利用しないとした理由を教えてほしい。
A：当初は東根給食センターへの委託を考えていたが、東根市内の今後の児童生徒数の推移などにより、県立中学校の生徒数分を加えると、東根給食センターを増築しなければならないことがわかった。東根給食センター増築の経費、運搬費や人件費等をトータルで比較検討した結果、自校方式とした。

Q 33：購買部や食堂を設置するのか。
A：購買部は設置するが、食堂を設置する予定はない。

Q 34：志願する前に、是非、校舎等の見学会を開催してほしい。
A：開校年度の入学希望者については、校舎等が完成するのは平成28年2月頃であり、残念ながら志願する前に開催することができない。校舎等の立体図は、できるだけ早期に公表したい。

【その他】

Q 35：今後、説明会を広く開催してほしい。
A：来年度は、範囲を広げて開催する予定である。